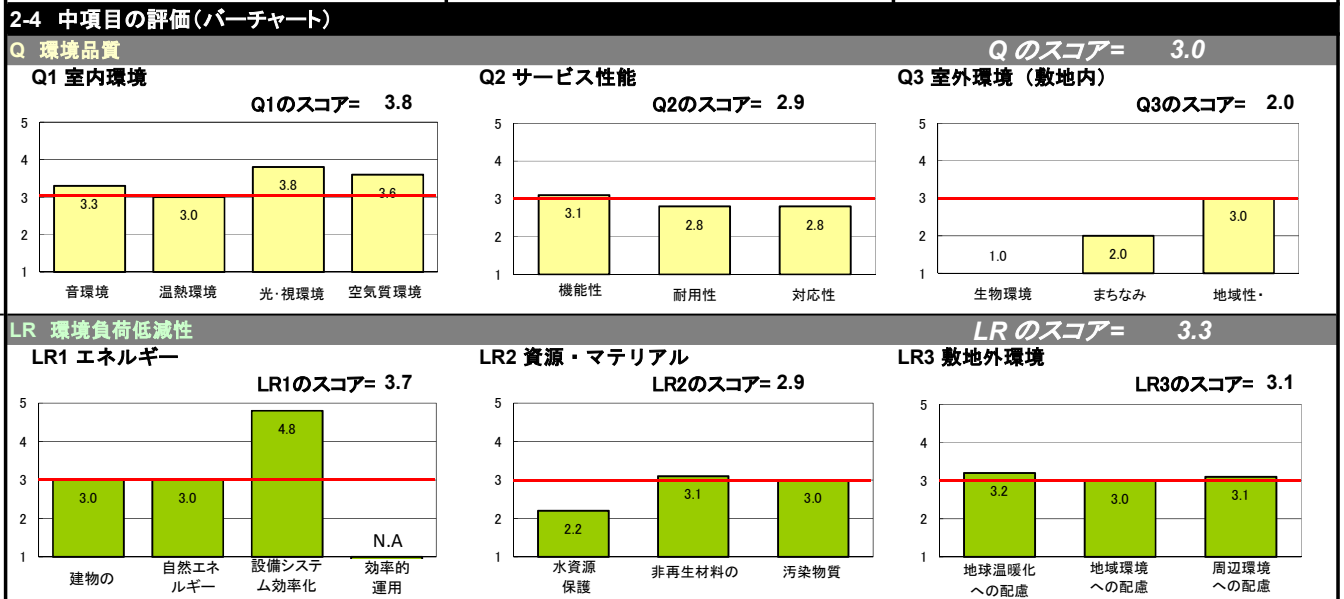
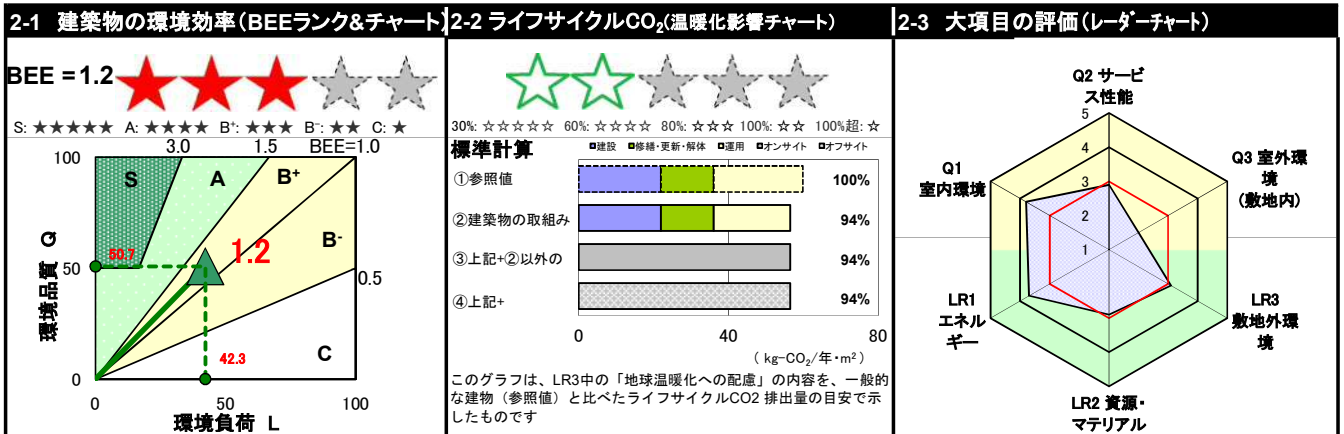


## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14065

建築物名称	(仮称)久保台ⅡB計画新築工事
建築主	株式会社 末長組 代表取締役 根本 裕之
建築物の所在地	川崎市高津区末長1丁目339番1他11筆の一部
設計者氏名、建築士事務所名	上原 秀晃 株式会社ディーシービー 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,418.48m <sup>2</sup>
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階、地下1階
工事完了予定年月	平成28年11月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

1-1 建物概要		1-2 外観		14065
建物名称	[仮称]久保台ⅡB計画新築工事	階数	地上3F地下1F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	川崎市高津区末長1丁目339番1他11筆の一部	構造	RC造	
用途地域	第一種低層住居地域、第1種高度地区	平均居住人員	110 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2014年12月11日	
敷地面積	1,749 m <sup>2</sup>	作成者	上原秀晃	
建築面積	850 m <sup>2</sup>	確認日		
延床面積	2,418 m <sup>2</sup>	確認者		



CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

【仮称】久保台 II B計画新築工事

14065

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.4</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市景観計画に則した外壁面の色彩計画	1.6/4.3	1.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.3 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.2 屋光制御	庇・カーテンによりグレアを抑制した。	4.5/6.7	3.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー等級3同等の断熱仕様とし熱負荷を抑えた。 高効率蛍光灯照明を採用した。燃料系潜熱回収瞬間式給湯器を採用した。	3.7/5.0	3.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 フロン・ハロンの回避	LGS工法を採用し躯体と仕上げが安易に分別可能とした。	2.7/4.6	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	配管材料の一部に硬質塩化ビニル管を採用	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS工法を採用し躯体と仕上げが安易に分別可能とした。	2.3/3.9	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐輪場を戸数以上設けた。	0.3/0.4	3.3
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物資源の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー等級3同等の断熱仕様とし熱負荷を抑えた。 高効率蛍光灯照明を採用した。燃料系潜熱回収瞬間式給湯器を採用した。	3.7/5.0	3.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の再利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.4	3.0
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー等級3同等の断熱仕様とし熱負荷を抑えた。 高効率蛍光灯照明を採用した。燃料系潜熱回収瞬間式給湯器を採用した。	3.7/5.0	3.7

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEF-川崎2011年版						欄に数値またはコメントを記入				14065
スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40			3.8
1 音環境										3.3
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル									3.0	0.50
2 設備騒音対策									3.0	0.50
1.2 遮音										3.6
1 開口部遮音性能									3.0	0.30
2 界壁遮音性能									3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					LL-40使用				5.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					LH-50使用				4.0	0.20
1.3 吸音										
2 温熱環境										3.0
2.1 室温制御										3.0
1 室温										
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能				W					3.0	1.00
4 ゾーン別制御性										
5 温度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										3.8
3.1 屋光利用										4.0
1 屋光率					屋光率2.0%以上確保				5.0	0.50
2 方位別開口									3.0	0.30
3 屋光利用設備				W					3.0	0.20
3.2 グレア対策										4.0
1 照明器具のグレア										
2 屋光制御					住戸部は、カーテン及び庇によるグレアを制御				4.0	1.00
3 映り込み対策										
3.3 照度									3.0	1.00
3.4 照明制御										
4 空気質環境										3.6
4.1 発生源対策										4.0
1 化学汚染物質					建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に使用				4.0	1.00
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レジオネラ対策										
4.2 換気										3.0
1 換気量									3.0	0.33
2 自然換気性能									3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮									3.0	0.33
4 給気計画										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				-	-	<b>4.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性			-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応			光ケーブルを利用	-	<b>4.0</b>	1.00	
3	バリアフリー計画			-	-	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>				-	-	<b>2.0</b>	0.40	
1	広さ感・景観			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-	
3	内装計画			-	-	<b>1.0</b>	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>				<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	維持管理に配慮した設計			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3	衛生管理業務			-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.8</b>	0.31	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>				<b>3.0</b>	0.48	-	-	
1	耐震性			<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2	免震・制振性能			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R	<b>3.0</b>	0.23	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R	<b>2.0</b>	0.23	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R	<b>3.0</b>	0.09	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R	<b>3.0</b>	0.08	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R	<b>5.0</b>	0.15	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R	<b>3.0</b>	0.23	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>				<b>2.2</b>	0.19	-	-	
1	空調・換気設備			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			<b>1.0</b>	0.20	-	-	
3	電気設備			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			<b>1.0</b>	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.0</b>	0.29	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	-	<b>2.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり			-	-	<b>3.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	-	<b>2.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性			<b>3.0</b>	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性			<b>3.0</b>	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性			<b>3.0</b>	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性			<b>3.0</b>	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性			<b>3.0</b>	0.22	-	-	
6	バックアップスペース			<b>3.0</b>	0.22	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.7
<b>1 建築物の熱負荷抑制</b>				W	H			3.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>								3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				W	H			3.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W	H			3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>				W	H			4.8
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)								4.8
集合住宅の評価								4.8
<b>4 効率的運用</b>								-
4.1 モニタリング				W	H			-
4.2 運用管理体制				W	H			-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>								-
<b>1 水資源保護</b>				W	R			2.2
1.1 節水								1.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0
1 雨水利用システム導入の有無								3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>								3.1
2.1 材料使用量の削減				W	R			2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R			3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R			2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R			4.0
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>								3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0
1 消火剤				W				-
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0
3 冷媒				W				3.0
<b>LR3 敷地外環境</b>								-
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				W				3.2
高効率蛍光灯を採用した。								3.2
<b>2 地域環境への配慮</b>								3.0
2.1 大気汚染防止								3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0
1 雨水排水負荷低減					R			3.0
2 汚水処理負荷抑制					R			3.0
3 交通負荷抑制					R			3.0
4 廃棄物処理負荷抑制					R			3.0
<b>3 周辺環境への配慮</b>								3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0
1 騒音								3.0
2 振動								-
3 悪臭								-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制								3.0
1 風害の抑制								3.0
2 砂塵の抑制								1.0
3 日照障害の抑制								3.0
3.3 光害の抑制								3.7
1 屋外照明及び屋内照明のつらねに漏れる光への対策								4.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0
広告物照明なし								3.0